

第4回寄居町議会議員報酬検討委員会の内容

開催日：令和7年6月17日

議題：議員報酬の改定について

内容 意見交換会

テーマ「議員の活動量、議員報酬をどう考えるか？」

開催場所：寄居町役場全員協議会室

出席者：議員報酬検討委員会委員 14名

人口3万人から3万5千人の町村の令和5年度の決算の状況について資料を配布し説明を行い、下記の質問がありました。

委員からあった質問

- ・ 議場音響・映像設備更新業務委託料について
- ・ 議会だより編集・印刷製本業務委託料が多いが詳細な内容について
- ・ 寄居町は議会事務局職員が多い。4人、果たして必要か。
- ・ 議員定数16人の考えについて
- ・ 今に至るまで報酬が変わらなかったことについて

質疑後、委員を3、4人のグループに分け、上記、テーマで意見交換を行いました。
各グループの意見は別紙のとおりです。

意見交換会

テーマ 議員の活動量、議員報酬をどう考えるか？

1班

若い人や女性にも寄居町議会の議員にチャレンジしてもらうようにするためにはやっぱり報酬は大事なことである。そのためには、まず報酬を上げる。それも埼玉県で1番に上げる。今の三芳町がトップらしいが、それ以上に上げるということを第1目標にしてみたらどうか。

それから、若者が議員に立候補できないのはお金のことがあるので、そういう若い人たちに各種手当を充実させる。例えば、子育てのために児童手当を支給するとか、扶養手当を支給するとか、その額も他の公務員よりもより多くする。手当の分だけ増えると子育てもしやすくなる。女性も立候補しやすい。さらに女性のための他の手当もあるかと思うが、それは考えてもらうということで。そういう手当の充実が大事だ。

それから予算総額で考えると、1%という話があったが、やはり1%は大きく変えない方がよい。なぜかという、大きく変えるとなると町民の理解が得にくいのではないかと。多少変えても構わないと思うが。ただ、どうしたらよいかということを考えると、変えなくて手

当や報酬を上げてくいくというのもなかなか難しい。議会の全体の金額の枠組みを見直していくことが必要という意見が出た。

その中で何に目をつけたかっていうと委託料である。委託料を再考してもらおう。「議会だより」は本当に町民に議員の活動を理解してもらうには、極めて大切なツールである。「議会だより」を無くすことは考えない方がよい。けれども、何故こんなに掛かってしまうというのは、やっぱり委託してるということが大きいと思う。だから、それを何か工夫できないかっていうことだ。「議会だより」は全国一という話があったが、それをあえて目標にしていなくてもよい。もっと手作り部門を増やしていく。例えば、今までの「議会だより」をさらに1回増やすけれども、より多くの議会の活動を町民に知らせることも、手作りでできるのではないかと。手作り部門をもっと増やしていけば、議員さんもこれだけ頑張ってるんだと、その仕事量も増える。だから報酬も上げてよいのではないかという理解にも繋がるのではか。

その他「議会だより」だけではなく、SNSをこれからどんどん利用していけばよいということだ。議員の活動してる様子をSNSに載せていくと、若者が、かえってSNSの方がより見るということもあるので、工夫がこれからできるのではないかということである。

2班

先ほど若者が住みやすい町を目指して欲しいっていう話があったが、住民の声が届いていない。アタゴ体育館で9校の特別支援学校の方が集まって、合同学習会あるがクーラーない中で行う。「暑い。」「なんで付かないんだろう。」といつも思っている。こういう住民の声が届いてないのがすごく不思議に思っている。

こういった声は違うところでも上がってると思うけれども、こういうことは議会だよりを見ても上がっていない。「なんで上がってないんだろう。」とすごい思う。あと、声を上げている方はたくさんいると思うが、その声が届きにくいという環境があると思う。声を上げても届かなくなると誰も声を上げなくなる。そうすると、活動は見なくなる。議会に興味なくなる。興味のないものに400万円かけることはありえない。「作り方だ」、「伝え方だ」という声が上がった。誰がその声を止めているんだという話もあった。

議会でさえ上げてくれないような声はいらない。「すたれます寄居町は」と思った。若者の声を聞き入れてくれない寄居町からどんどん住民は出ていく。寄居町に戻って来てくれない。古い住宅が増えて、イノベーションをすごいかけてる地域もあるが全然戻ってこない。同級生はみんな深谷市にいる。住みよいからだ。福祉がちゃんとしてるから、そういうことも必然と考えていただければというふうに思う。

報酬と言われてますけど、活動が目に見えてこない。目に見えない活動にお金は払えない。活動をどう伝えてるかという、先ほどSNS、インスタの話もあったが、やはり「議会だより」というツールを使っていけば思うが、それを若者が見ない。ということは興味がない。よい情報が載ってないと興味は湧かない。どこの情報を拾っていいかわからない。拾い方がわからない。良い情報があれば、保護者は子どもに伝える。そういうことができてないのが今の現状だと思う。

デザイン料とかもすごい金かかっているのに、伝わってないということは伝え方が悪い。伝え方が悪いってことは、誰も活動してないようにみなす。「報酬上げますか」と言ったときに絶対に上がらない。

庁用備品とは何か。議会のテーブルや椅子の代金かと思うが、学校で楽器が壊れて予算がつかないことがあるのに、「ここになぜ予算つくんだ」とちょっと愕然とした。

議員報酬は月23万円ぐらいで、新入社員にとって23万円すごく高い。議員は兼業できる。兼業できない職業はたくさんある。そう考えたときに、「兼業で頑張れよ」と思ってしまう。今の活動体制を見てると、報酬は上がらないのではないか。

やってる活動が全然目に見えてこないのも、そもそもの論議でいくと、これをやりたいという若者が出てくるかというところすごい疑問がある。本当に後継者がいなかったら寄居町という町がなくなってしまうのではないかなとすごく思った。

後継ぎを作るという点においても、皆さんの意見を上げる力、伝える力をもっと上げていていただかないと、本当に良くならない。

3班

様々な面で議員と何か一緒に行う機会ってあるかということ、なかなか無い。今回のテーマが、「議員の活動量と議員報酬をどう考えるか」ということでかなり核心について話し合った。まず議員の活動量というところで、去年から活動報告おこなっていると思うが、是非それを見たいという意見が出た。

2班のそういう意見は当然あっていいと思う。「議会だより」を見ていない方も結構いると思う。ですけど、「議会だより」は、町民を大事にしている。要するに町民に声かけて取材して、それを題材にして取り上げているところで、非常に最近の「議会だより」は町民を主役にして作ってくれているというような意見を聞いている。そういう意味では、「議会だより」は必要であると、我々の中では話がまとまった。

あとは議員報酬であるが、今の議員報酬で家族を持った生活はとても、それだけでは無理だ。副業ができるということではあるが、やはり議員に徹底して議会の仕事をさせていただきたいという気持ちがある。様々な立場の方が、議員報酬である程度生活ができるような、報酬にならなくてはいけないのではないかな。寄居町が報酬を検討する委員会を開催して、1年間という形で検討委員会を開催している中で、より埼玉県でも先進的に寄居町議会がこういう形で始めたことを町民の方に知っていただき、また、それが良い引き金になって、寄居だけでなく他の周りの町村が、そういった形で動き始めて全体的に上がっていくというのにも必要なのではないかと思った。

あと全国的に見て、3万人から3万5千人のところ人口の中で見ると、ほとんどで一般会計に占める議会費が1%前後ということで、議員報酬が1人何万円か上がったところで、最終的には全体の中のこの枠に収まるような、全体の中の1%ぐらいで収まるような形で、最終的にはなっていくのではないかな。要するに様々なところで調整しながら、当然そのときの予算で変わるが、1人に対して5万円とか6万円の報酬を上げても、多分、最終的には1%前後で収まってくる。お金が動く分は、例えば福祉だとか、他から持ってきて報酬を上げる

のではなくて、議会費の枠の中での議員にかかる費用が、全体の中の1%前後というので、この町を見ても、それも同じような金額で、予算がすごく高いところ、また人口が少ないところもほとんど変わらないということは、多分その中で収められるようにうまく構築できるんだらうと思った。是非、そういう形で当然無駄のないように努力をしていただきながら、議員にはきちっとした報酬を払いながら、1%で収まるような形にしていいただければ非常に上げた意味があるかなと思った。

4 班

まず前提としては様々な世代の人にやっていただきたい、それが前提にあり、とにかく報酬は上げてあげたい。議員で何とか食べていければと思うが、食べていけるかどうかは別としても上げたい。上げるための根拠は必要だ。やはり活動量を増やしていかなければいけない。活動量を増やして報酬をあげたい。そのためには、委託料を減らす努力も一つあるだろう。報酬を上げるために、その財源を持ってこなければいけないので、例えば議会だよりは、できるだけ手作りをし、でもそうは言っても様々なアドバイザー的なものが必要だろうから、最低限必要な方のアドバイスを受けながら、より良いものにして、経費を抑えていけばどうか。

あと活動内容を増やしていくためには、活動の何を増やすといっても、どうやってよいかわからないが、一つは地域住民と話す機会を増やす。議会で様々な声を聞いて、活動がみんなに見えるようになれば、報酬が上がっていても「そうだよね。」と納得してもらえらるだろう。

報酬額はどの程度がよいかわからないので、上げたのがわかるぐらいに、県の町の中では一番よければ印象が深く思ってもらえるのでは。

子育て世代の議員には、やはり扶養手当みたいなもの、報酬だから今後条例を変えられるかわからないが、若い人はそれだけお金がかかるので、若い世代、子育て世代には少しでも報酬というか、給料的なものにプラスして、上げてあげるような形ができないかなと思う。

議会だよりは外注だけでなく、自分たちで頑張るというのは、若い人は機器に強い人も多いので、工夫して今まで外注してたものが少しずつ自分たちの手で結構できるのではないかなということも期待しながら、議員の活動を見直す中で、何とか報酬額も上がっていけばなと思う。議会費が1%という話が出ていたが、基本的には私達の班も同じで、総枠の中で1%できればいいけども、色々見直す中で、うまくなかなか実現できないということであれば、定数にも手を、本当はつけたくはないだろうが、調整が無理であるということであれば、1名減ぐらいなら、やむを得ないのかなという話が出た。